

係活動の手引き

その4 係をつくる指導

中学年以上の係活動

◇係をつくる

(1) 活動を出させる

どうやって係を作るのか、その方法をいくつか紹介します。

① 過去の経験から出させる

「去年までどういう係を作っていましたか？」

この呼びかけで、これまでに経験したことのある係名が出されるでしょう。その時、子どもたちの前学年までの経験によっては、当番活動が係として出されることがあります。例えば「黒板係」「窓あけ係」というようにです。そういう時に、係と当番の違いを教えましょう。

- ・当番活動とは、ないとみんなが困り、学級生活に支障をきたすもの。
- ・係活動とは、なくても困らないが、あると学級生活が楽しくなるもの。

② 子どもたちのよさを生かして出させる

「どんな係があると、この学級がより楽しく、よりよくなると思いますか？」

そうすると、子どもたちの中から次のようなことが返ってきます。

- ・季節に合わせて教室を飾る係
- ・おもしろい遊びを考える係
- ・みんなの誕生日を祝う係

また、次のような呼びかけも効果的です。

「自分だったら、どうやってこの学級をよりよくできると思いますか？」

- ・ぼくは、運動が得意なので、みんなに運動の楽しさをわかってもらう係をつくりたい。
- ・私は、折り紙が好きなので、それを生かして教室の飾りを考える係をつくりたい。
- ・ぼくは、楽しいことが大好きなので、みんなが喜ぶことを考えて、この学級を明るくしたい。

「～係」という名称ではありませんが、子どもたちの思いを生かしたものですからこのままで使ってもよいと思います。名称は後から書き換えても構わないのですから。

③ 教師の願いや他学級の情報を取り入れる

学級経営上、どうしてもあってほしい係があれば、それは子どもたちに伝えるこ

とも大事ではないかと思えます。私は、「この学級に歌声を響かせたいので、音楽係を作ってくれないかなあ」と言ったこともあります。

また、子どもたちが発想する係は、基本的に自分たちの経験から出されることが多いようです。そこで、他学級の調査に行かせたり、次のような呼びかけをしたりすることも効果的です。

「先生が前に受け持ったクラスに〇〇係というのがあったよ。」

「この学校の〇年生に〇〇係というのがあったよ。」

(2) 所属する係を選択させる

係が決まれば、子どもたちの所属を決めます。この場合、次のことに気をつけましょう。

その1：係の構成人数を制限しない

「〇〇係は4人までね」と、係の構成人数を制限することをよくやっけてしまいます。それは、所属決定の効率性を考えた上での配慮だと思うのですが、子どもたちの問題解決力育成を考えた場合、あまりいい方法とはいえません。これをやると、子どもたちの所属希望を聞き、規定人数より多すぎた場合には、ジャンケンで決めるということになってしまいます。勝った子はいいいのですが、負けた子の活動意欲は一気に下がってしまいます。そうならないためにも、構成人数を制限しないという方法をとります。

これを行うと、3つの問題が起こることが想定されます。

① 一つの係に多くの子どもが集中する

この場合は、しばらく活動させてみます。そして、子どもたちが活動しにくいと感じた時（問題場面の発生）、どうしたらよいかを話し合わせるようにします。ヒントとしては、仕事の内容によって係を2つ以上に分けるとか、新しい係に発展させるとかの工夫をするような助言をしてあげればよいでしょう。

例) 新聞係・・・スポーツ新聞係と遊び新聞係に分ける。

遊び係・・・イベント係に発展させる。

② ある係に一人しか希望者がいない

基本的に、係活動というものは集団活動ですから、一人で活動するということはありえません。しかし、それを選んだ子どもの思いを大事しようと思えば、担任がその係に所属し、一緒に活動をします。ただし、いつまでもその状態を続けるわけにはいきませんので、その係の活動をめいっぱい楽しいものにしていくようにします。そうすると、「いっしょにやってもいい？」という子どもが出てきますので、そういう子どもを仲間に入れて集団活動を成り立たせていきます。

③ 誰も希望する係がない

一度決めた係は存続させなければいけないと思いがちですが、そうとも限りません。誰も希望しないということは、その係は必要ないと子どもたちが判断したわけです。ですから、私の場合は、その係を消してしまいます。

もし、後でやっぱりあった方がいいということで所属したい子どもが現れたら、その時に復活させても全く構いません。

その2：(公に) 構成メンバーを指定する

「この子には、〇〇係がぴったりだろう」、そう考えて、ある子を特定の係に所属させることがあります。子どもの実態等がありますので、一概にだめだとは言えませんが、少なくとも公に指名するのは避けたいと思います。

同様に、「この子には〇〇さんといっしょの方がおちついて活動できる」など、個に対する支援から係を指定することもあります。この場合には、指定する子どもから事前に了解を得ておく等の配慮を忘れないようにしておきたいものです。

ここで一言！

先に係と当番の違いを説明することを言いました。しかし、一回説明したくらいでは、理解できない子どもたちもたくさんいます。子どもたちのこれまでの経験から、初めからユニークな係ができるとも限りませんので、当番的なものから少しずつ移行していくという方法も可能です。

また、『4月になったらすぐに係活動をつくらなければならない』という決まりがあると信じられているようですが、あわてる必要はないと考えます。係という形を整えるよりほかに解決すべき問題がある場合は、そちらを優先させるべきです。

低学年の間、先生のお手伝い的存在であった係ですが、中学年からは、はっきり「学級生活をよりよくするもの」という係の意義を活動を通して教えてあげられるといいですね。

◇係の活動計画をつくる

学級に係が決まりました。さっそく動き出します。

ちょっと待ってください。係活動を学級生活をよりよくするために活かそうとするには、動き出す前に、係の活動計画をつくらせることが大切です。

(1) 活動内容を決めさせる

学級生活をよりよくするために、何をやりたいのでしょうか。何をやったらいいのでしょうか。メンバーの考えを出しあわせ、活動内容を決めさせます。

係活動の内容には次のふたつの機能があるとされています。

集団維持的機能 と 課題達成的機能

図書係を例にして説明します。

集団維持的機能とは、当番的な活動内容だと考えると分かりやすいです。例えば、学級文庫の整理や本の貸し出し業務などですね。

課題達成的機能とは、メンバーの創意を生かした活動内容です。例えば、本の紹介とか図書新聞の発行、図書クイズ大会などですね。

子どもたちが考えやすいのは、維持的機能を持つ内容です。しかし係の性質から言えば、

達成的機能に重点がおかれるようになった方がいいというわけです。そこで、活動を通して適切な助言によって達成的機能を持つ内容に気づかせるようにしていきたいものです。

(2) 活動の計画を立てさせる

活動の計画をできるだけ具体的に書かせます。

メンバー・目的・活動内容 (いつ・どこで・どんなことを)
みんなにお願いしたいこと

これらのことをはっきりとポスター（または計画書）に書かせておいて、教室に掲示してあげましょう。メンバーの写真を貼るという方法もあります。